

# 白鷹紅花 周辺マップ



水<sup>み</sup>

土<sup>ど</sup>

里<sup>り</sup>

ウオーク



# しらたかべにばな 白鷹紅花

## 人々を魅了する紅

紅い花と書くベニバナだが、含まれる色素のうち九十九%が黄色で、残りのわずか一%だけが赤。当時、紅花（紅餅）は米の百倍、金の十倍の価値がある貴重品とされた。山形の紅花は全国一の質・量を誇り、主に最上川舟運で京都へと運ばれた。そこで鮮やかな口紅や紅花染に姿を変え女性たちを魅了し、時代を彩っていた。

## 白鷹町の取り組み

県の花に指定され、親しまれている紅花だが、栽培が途絶え「幻の花」となったことも…。白鷹町では平成六年に「白鷹紅の花を咲かせる会」を発足させ、紅花の復活に取り組んできた。紅花まつりやアート展の開催、紅ランチの提供など町全体で活動に力を入れている。

山形市や河北町でも栽培が盛んな紅花だが、生産量は白鷹町が日本一。一面の紅花を見て白鷹町に行ってみよう。

## 伝統の紅餅

紅餅は紅花の花弁を発酵させ、煎餅状にしたもの。山形の夏の風物詩「花笠まつり」に使用される「花笠」は、紅餅をざるに干している様子を表している。

童謡「花いちもんめ」は紅餅と関連があり、紅餅1つはいちもんめ一匁（約3.75g）になるが、作り手の技量で重さや形が変わる。技量の良い娘が嫁にほしい…



紅花染めの生糸(上) 着物(下)

